

---

**本が好きで小説を書いた。**

あちゅら。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

本が好きで小説を書いてみた。

### 【Nコード】

N75480

### 【作者名】

あちゅら。

### 【あらすじ】

父と母に愛され過ぎた少年が学園へっ！！  
才能溢れる少年の学園から始まるすとおくりいゝです。

異世界って意外と難しいかも・・・。

あの日は、珍しく満月が輝いていた。

森の拓けた場所にある平屋から新たな命が生まれたことを告げる声があった。

外に出ていた男が、慌てるようにして家に戻った。

「生まれたのかー!!」

父親であろう男が言う。

「元気な男の子じゃ。奥さんに声をかけてやんなさい。」  
老婆が言う。

「ああ。よく頑張ったな・・・。」

「あなた・・・。見て!可愛い子よ!!名前は決めた?」  
妻が言う。

「もちろんだ!!テラって言うんだが・・・どうだ?」

「素敵な名前ね。」

妻と夫が愛し合う家に新しい命が生まれた・・・。  
・・・それから15年後。

「テラー!!!起きないと入学式から遅刻だぞー?」

父さんの声が平屋の家に響き渡る。

「分かってるよ。」

その声にさっさと起きた俺は(経験上起きないと枕に雷撃が飛んで

くるからだ。）、時計を見ると8時半……。入学式はたしか8時45分からだったな……。

うん。寝過ぎた。

この家は、学園がある都市ネクスタへは普通に歩いて一時間は掛かるが

魔法を使える親がいると瞬間で着く。

なぜ寝過ぎたかというと、体は汗ばんでいて頭は寝癖で酷いことになっている……。

準備には約10分は掛かる。

そんなことを考えつつ凄まじい早さで洗う。

……十分後。

「早く早く!!!」

母さんが展開してある魔法陣の上で父さんと待っていた。

急いでそれに乗リ、ネクスタにある魔法学校の校門前に到着した。

入学！！（前書き）

展開がはやいっすね  
頑張ってなおります。

## 入学！！

「でつつつつけー！！！！！！！！！！」

第一印象はそれだった。

まるで、ハリオタのホーツ城みたいだった。

父さんと母さんはここの魔法学校を卒業したためかあまり驚いていない。

「驚いてないでさっさと行かないとー！！」

恥ずかしい思いをしたくないのか母さんが急かしてくる。

入学式は親の出席は要らず、尚かつこの学校は寮制で暫くは会えないことになるので両親が送るのも毎年らしい。

「はい。じゃあ行つてきまーす！！」

「頑張れよー！！後で荷物とかは転移魔法で送るからなー！！」

泣き出した母さんと一緒に手を振る父さんが走り出す俺の後ろで消える気配を感じ、

少し泣きそうになりながら学園へと向かった。

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

・・・入学式はギリギリ間に合つてそれぞれのクラスに向かつている。  
（俺のクラスはD組だ）

俺たちの教室は二階にあるが、学園が馬鹿でかいので、長い長い廊下と大きな階段を進むがみんな緊張しているのか、とても静かで誰がどんな奴なのか全く分からなかったが、俺のクラスの担当の教師は銀髪、髑髏のTシャツ、ダボダボのジーンズと、やる気が無い教師と判断出来る出で立ちだ。

俺が人間観察を試みている間に教室に着いたらしい。

教室は大学の講義室を思い浮かべていただと分かるだろうか？そして、俺の住んでいた平屋より大きかった。その大きさには多くの生徒が言葉を無くした。

「じゃあ、適当に座っちゃって。」  
と銀髪。

呆気にとられていた俺たちはその声で我に返り、座る場所を選び始めた。一部の男子が同じタイミングで同じ場所を見た。

・・・そう、一番後ろの窓側である。

そこからは、戦争だった。座った奴を椅子から降ろし殴ったり蹴ったり魔法を使ったりとグチャグチャになっていたが、銀髪は笑って見ているだけであり俺を含めた生徒はさっさと決めていた。

なんとか勝って座ったのはイケメンで茶髪な奴だった。

俺が一番後ろの窓に近い方を選んだため、そいつと隣同士になったのだ。

銀髪がアランに負けた奴らを魔法で持ち上げて、空いている席に置いていき水の魔法で起こしていた。

「よし。自己紹介でもすつかあ。じゃあ廊下側の前、後ろってな感じですすめてってくれ」  
と銀髪。

最初は獣人の女の子からだった・・・。

・・・何人かの後に、ある人間の女の子の番が来た。

「この私の名前はサリア・エッツイオ。得意な属性は炎と風、光よ。使える属性は5つ。」

その紹介が終わったときクラス中がザワザワしていたが俺にはなぜなのかわからなかった。

驚かない俺に茶髪が

「お前驚かないのか？あいつは上級貴族の娘だぞ？」

と聞かれたが、へえーとしか思わなかった。なぜなら父さんと母さんの方がその上級貴族よりも強いと感じていたからだ。

・・・そして、俺の番が来た。

入学！！（後書き）

設定とかわかりにくいですねー  
すいません

学園！！（前書き）

これ書いたら設定書く予定です。

学園！！

「はい。じゃあ次の奴。」  
と、銀髪。

「おれはテラ。テラ・アルフランス。得意っていうか使えるのは良  
くわかんねえ！！聞いたただだが雷と闇らしいんだわ。よろしくな  
っ！」

また、なぜかざわめきだした。

茶髪が顔を寄せてきて

「お前マジでアルフランス家かよっ！！いったいどんな英才教育受  
けてきたんだよ！！お前の両親ってギルドランクSSSの雷光の先  
駆者とSSの闇の賢母だったのかよ！？しかも、よくわかんねえっ  
てどういう事だよ！？」

と聞いてきた。

そう、聞かれても家は森の中にあってしかも狭い平屋だったことか  
ら逆にみんなの反応が信じられないのだ。それに習ったことは、剣  
技と型・狩りに必要な武器の使い方ぐらいで魔法はほぼ皆無といっ  
てもいいくらいで、知識は生活に必要な事ぐらいしか親に聞いてい  
ないのだ。

だから、首を傾げるぐらいしか出来なかった。

次は茶髪の番だった。

「よろしくなっ！！俺はアランだ。アラン・シルヴィード。得意属  
性は光と風と土だ！！使えるのは6つだ！！そしてえゝ女の子がだ・

い・す・き!!」

名前の所ではザワザワしていたけれど、最後の言葉を聞いた瞬間空気が凍った。

「え? そんなにおどろくかあ? 有名なのは俺のおやじだぜえ?」

と、当の本人は冷たい空気に気付いていないらしい。

「お前はふつーかよ? あ、俺の親父つてのはこの大陸の王なんだわー」

「え!?!」

知らない筈はない。ただ、この空気に固まっていたのだ。

「じゃー自己紹介はあと、俺だけだな? 俺の名前はルード・ルロンゾだ。あ、女子生徒諸君。色々な色の下着ありがとさーん!!」

銀髪改めルロンゾが口にした瞬間あ、また変態か・・・とクラス中が思った。

「さて、なんで女子が顔を紅くしてるかは置いておいてだなー今日はもうやることないから寮の自分の部屋に帰っていいぞ? 部屋の番号は入学式の前に貰ってると思うしな。あと、荷物はもう運ばれてるから安心しろ。じゃあ。また明日だ。」

そういうと、ルロンゾは教室から転移した。

「じゃあ、テラ・・・でいいか? 一緒に帰ろうぜ?」

「おう!!」

・・・寮前

「やっぱりでつけえな?」

「こんなにしなくても良かったのにな」

目の前に広がる尋常じゃない大きさの寮を見ながら言った。と、アランと話していると寮の中から美女が現れた。

「あら、新人生?」

「は・・・はい!!!」

「じゃあ今から調べるわね？」

数分後

「えーとアラン君は304番で、テラ君は306番ね。」

「ありがとうございます！！！！」

学園！！（後書き）

区切れ悪いですがここで切ります（汗  
読んでくださって感謝します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7548o/>

---

本が好きで小説を書いてみた。

2010年11月8日13時10分発行